

# 現代版「稲むらの火」

## 避難誘導 太陽光ハイブリッド発電で アイレス

アイレス電子工業(株) (辻正吾社長・和歌山県海南市目来840)は、風力・太陽光ハイブリッド

鑑定費用は1検体当たり通常税別2万5000円だが、3月31日までは2万円。年間検

体数が50以上の場合は、お得な年間契約価格も設定した。

問い合わせは0120・104・465まで。

ド発電システムを採用した緊急時の「避難誘導灯」を開発した。東南海・南海地震による津波の夜間発生に備え、和歌山県が「現代版 稲むらの火」事業の一環として昨秋実施した製品コンペで最優

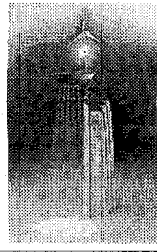
秀作品に選ばれた製品。同事業は安政大地震(1854年)の際、同県広村(現広川町)の豪農がわら束に火をつけて誘導し、津波から村人を救った故事にちなんだもの。開発した誘導灯は、風

先からでも確認できるストロボ式の強烈なフラッシュライトを点灯。同時に、スピーカーからサイレンや音声で誘導する。今年4月をめどに完成予定で、1基150万円程度で設置できる見込み。

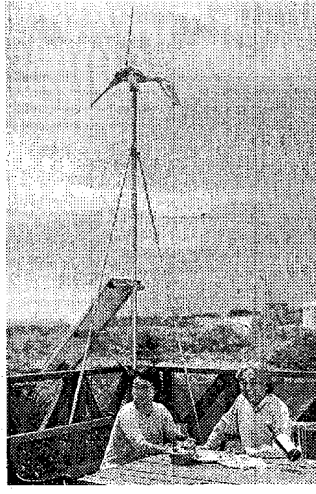
同誘導灯の原型は、同社が販売する「風力・太陽光ハイブリッド照明灯」(ゼファー社製)で、同県内の「アドベンチャーワールド」(3基)や「県情報交流センターBig・U」(2基)などの施設にも納入、設置している。また家庭のベランダなどに取り付けられる「同ハイブリッド発電システム」(同)も好評。いずれも、無風でも回るパワーアシスト機能などを搭載しており、家庭用から業務用まで用意した。

同社は、FAシステム事業やソフトウェア開発など幅広い事業を展開している。

問い合わせ先 2007 3・483・2276



⑥は新開発した避難誘導灯。強烈な光で点灯する。  
⑦は家庭用ハイブリッド発電システム



幅掛正浩氏(はたかけ・せいこう、(株)クボタ幡掛社長の父)は1月14日午前5時35分、肺炎のため市立伊勢総合病院において死去、満92歳。

幡掛正浩氏は大正2年7月26日生まれ、福岡県北九州市出身、元伊勢神宮小宮司。

葬儀は近親者のみで執り行われた。喪主は長男の幡掛大輔氏。